

# 『平成25年度 街なか再生助成金』

## 助成事業の報告

本助成金の募集につきましては、今年の2月1日から3月31日までの2ヶ月間行ったところ、全国より25件の応募をいただきました。

応募頂いた全ての事業を確認し、選考委員会による厳正なる審査を行った結果、以下の7事業に対して助成を行うことに決定致しました。

### ■ 平成25年度助成事業一覧

事業名	団体名	実施場所
久之浜町新商店街設置検討業務	久之浜町商工会商業施設設置検討会議	福島県いわき市
歴史的環境を活かした地域協働の景観まちづくり推進事業	唐津街道姪浜まちづくり協議会	福岡県福岡市
久街道まちみがき研究会支援事業	特定非営利活動法人静岡都市デザイン機構	静岡県静岡市
豊間震災復興土地区画整理・地場産業再生拠点計画策定	ふるさと豊間復興協議会	福島県いわき市
飯田わくわく広場周辺地域げんきプロジェクト	飯田わくわく広場振興会	石川県珠洲市
まだら状津波被災地における空き地再編型市民事業	気仙沼八日町復興まちづくりの会	宮城県気仙沼市
摂田屋地区歴史的建造物と景観の保存、再生に係る事業	NPO法人 醸造の町 摂田屋町おこしの会	新潟県長岡市

事業名称	久之浜町新商店街設置検討事業
団体名	久之浜町商工会 商業施設設置検討会議
実施場所	福島県 いわき市

**事業概要:**

東日本大震災による津波等により商店街を含めた地区一帯が壊滅したが、平成25年度から開始される土地区画整理事業に合わせて、住民にとって買い物利便性が確保でき、商店主にとっても継続的な店舗運営が見込める、双方にとって魅力のある新たな商店街づくりに向けて、以下の事業を実施した。

**実施報告:**

- ①商業施設設置の用地確保
- ②出店希望者の募集（出店希望者との会議：計13回開催、出店希望者への個別協議等も実施）
- ③準備組合の設立
- ④出店希望者等による先進施設の視察（立川、吉祥寺、中野等）
- ⑤全世帯アンケートの実施及び分析（避難世帯を含む1950世帯全世帯を対象）
- ⑥地域女性によるグループインタビュー（5から7名からなる女性の3グループインタビュー）
- ⑦商業施設のコンセプト作成
- ⑧町及び住民とのコンセンサスづくり
- ⑨商業施設PRチラシ作成



→ 作成された  
商業施設PRチラシ



↑ 商業施設のコンセプト作成の様子

**実施成果:**

- ・ 商業者の視点に立ち、再びこの地で商業を再開できないかを出店希望者会議にて議論しつつ、先進商業施設の視察を通じて、他の施設での取り組みといったソフト面と、必要となる施設や設備といったハード面を学習することができた
- ・ 住民消費者の視点に立ち、どのような施設が必要かを聞き取り、全世帯アンケートを実施。この分析による地域住民の閑雅を把握することができ、また住民代表者の集まりである「復興対策協議会」に説明することで、久之浜町とコンセンサスのある程度とることができた
- ・ 商業者と消費者双方の意見をすり合わせて商業施設のコンセプトを作成、これにより、商業施設立地における『土台』を作ることができた

<b>事業名称</b>	歴史的環境を活かした地域協働の景観まちづくり推進事業
<b>団体名</b>	唐津街道姪浜まちづくり協議会
<b>実施場所</b>	福岡県 唐津市

**事業概要:**

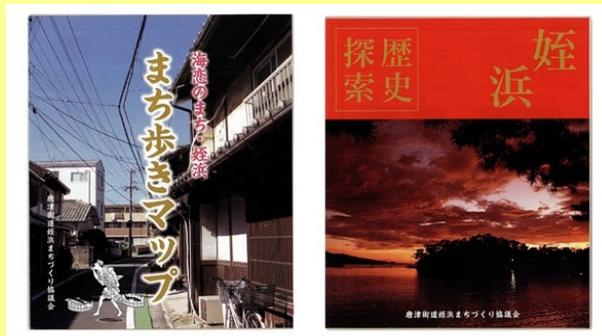
姪浜地域は、多彩な歴史や寺社、古い町家等の魅力資源により福岡市内でも有数の歴史的環境が形成されているが、その魅力が地域内であまり認識されていない。姪浜の景観への関心を呼び起こし、地域の方たちに景観づくりに積極的に関わってもらうために、以下の事業を実施した。

**実施報告:**

- ①「まち歩きマップ」の改訂・配布
  - ・4月末に当該「まち歩きマップ」の改訂版を作成し、5月から配布
- ②町家の再生・活用社会実験の実施
  - ・11/2～9に実施される唐津街道姪浜ウィーク「とっておきの姪浜！」の一環として、登録有形文化財として登録されているマイヅル味噌のみそ蔵を特別に公開し、「みそ蔵ギャラリー」「みそ蔵コンサート」「みそ蔵シネマ（映画館の上映会）」を実施した
- ③景観づくり計画策定のための委員会実施
  - ・平成25年度内に計8回のさまざまなテーマでの「景観まちづくり委員会」を開催したほか、2回の景観調査を実施し、「姪浜景観づくり計画」を策定した



▲「みそ蔵ギャラリー」の様子



▲改訂された「まち歩きマップ」

**実施成果:**

- ・改訂版の「まち歩きマップ」は約5,000部が配布され、地域の魅力PRの一助となった
- ・当初は別の町家で実施する予定であった社会実験は、急きょ閉鎖することとなった「マイヅル味噌のみそ蔵」に場所を変更して実施、当該施設の今後の再生・活用策を考えるきっかけともなった
- ・3箇月に2回のペースで景観まちづくり委員会が開催することができ、いろいろな立場の方々から多くの意見をいただきつつ、「姪浜景観づくり計画」を策定することができた
- ・今回事業が、地域住民のみなさんが地域の貴重な財産である歴史や町家、街なみ等に誇りと愛着を持ち、地域全体に景観づくりの取り組みが広がるきっかけとなった

<b>事業名称</b>	久能街道まちみがき研究会支援事業
<b>団体名</b>	特定非営利活動法人静岡都市デザイン機構
<b>実施場所</b>	静岡県 静岡市

**事業概要:**

対象地区は、駅に近く、中心市街地の一角を占めながら、空き地・空き店舗が散在し、衰退化傾向にあった。一方で道路の延伸が予定されており、久能街道沿道周辺においてもポテンシャルの急激な上昇による乱開発が危惧されたため、その予防を講ずるとともに地元住民や沿道企業との官民連動型まちづくりの推進の基盤を造るために、以下の事業を実施した。

**実施報告:**

- ① 久能街道における沿道の空間・景観形成に係る「ガイドライン骨子」の作成
  - ・月1回のペースで「久能街道まちみがき研究会」を開催し、久能街道にふさわしい都市デザインのあり方を議論し、住民の意見を中心とした「ガイドライン骨子」を取りまとめた
- ② 都市デザインの普及・啓発を図る「都市デザイン講座-1（視察）」の開催
  - ・目抜き通りや路地の都市デザインについての先進・類似事例3事例を視察し、その後議論を行い、久能街道にあるべき都市デザインのあり方についての意識の共有化を図った
- ③ 都市デザインの普及・啓発を図る「都市デザイン講座-2（勉強会）」の開催
  - ・行政職員を対象に、都市デザインのあり方や当地区整備にあたっての事業手法案についての勉強会を行った
- ④ 研究会の自主的成長を促す「検討資料等」の作成
  - ・上記の検討経験が不十分な者の議論の一助とするため、久能街道全体を俯瞰できるスケールの模型（1/1000）と街区毎の土地利用転換のイメージが検討できるスケールの模型（1/300）を2種制作した

→  
模型を  
活用した  
研究会の  
様子



→  
都市  
デザイン  
(勉強会)  
の講座  
様子



**実施成果:**

- ・研究会当初は消極的であった者もいたが、研究会にて議論を重ねていくなかで、次第に主体的な発言が増え、意識の変化が図られた
- ・当該研究会活動が多方面に周知され、行政との意見交換が実現し、当該活動に対する多数の賛同者を行政内にも得ることができた
- ・また当該沿道整備の一部区間ではあるが、その関係者一同と当該景観形成についての協議を開始することが出来た

<b>事業名称</b>	豊間震災復興土地区画整理・地場産業再生拠点計画策定
<b>団体名</b>	ふるさと豊間復興協議会
<b>実施場所</b>	福島県 いわき市

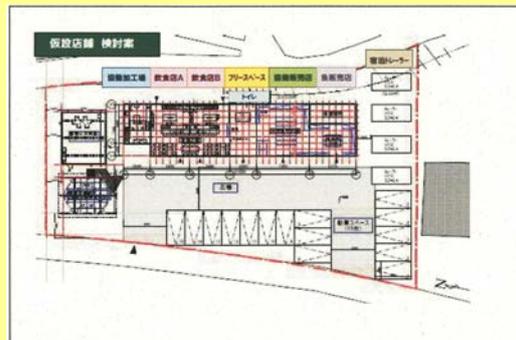
**事業概要:**

東日本大震災で大きな被害を受けた当地区において、自力再建が困難な事業者が多く産業施設や商業施設等の再生の見通しが定まらない中で、従来あった地域のまとまりや地場産業を再構築し、より良いコミュニティを再建するための意見を住民同士で出し合い、それらを整理集約して今後の復興計画に反映させるために、以下の事業を実施した。

**実施報告:**

- ① 産業再生検討会議の設立
  - ・震災前事業者（約 50 事業者）を対象に、各種検討のための会議を設立
- ② 同会議開催による各種再生計画の検討（H25.4.21～H26.2.25：計6回）
  - ・事業再開意向の確認、仮設店舗開設の検討、産業・生活拠点の検討といった観点で会議を実施
  - ・会議は、講師（NPO美しい街住まい倶楽部）の支援を受けつつ実施
- ③ 同会議による震災前事業者（約 50 事業者）への意向調査
  - ・自力再建意向を持つ者も少数あったが、多くは高齢を主な理由に、廃業に陥らざるを得ない実態が判明
  - ・約 10 事業者程度が共同会社などへの参画を希望していることが判明
- ④ 仮設店舗計画（概要）の策定
- ⑤ 産業・生活拠点計画（概要）の策定

→ 産業再生検討会議の様子



← 検討された仮設店舗計画

**実施成果:**

- ・産業再生検討会議の開催により、「地域協働産業会社（まちづくり会社）」の設立と、産業再生・交流拠点の整備に向けた検討を推進することができた。
- ・土地区画整理事業完了後の本格的復興、同事業区内の災害公営住宅の入居に合わせて、仮設店舗の開設、拠点施設用地の集約化、豊間区の法人化、町会の再編等を実施することについて、地区全体で取り組むことの意義を確認でき、復興への希望を見出すことができた。
- ・今後は、これらを踏まえ、協働での生鮮品の直売、飲食提供、特産品づくりの実証実験を行うと共に、まちづくり会社の設立、産業再生・交流拠点の形成に向けた準備体制の構築を更に進めてゆく。

<b>事業名称</b>	飯田わくわく広場周辺地域げんきプロジェクト
<b>団体名</b>	飯田わくわく広場振興会
<b>実施場所</b>	石川県 珠洲市

**事業概要:**

石川県珠洲市は能登半島の最先端にあたり、過疎化が深刻となっている地域である。珠洲市の中心市街地である飯田町の中心部にある「飯田わくわく広場」という施設周辺において、飯田町の衰退を食い止め中心市街地の交流人口拡大を図るため、以下の事業を実施した

**実施報告:**

- ① 中心市街地活性化の試みとしてのイベント開催実験、アンケート・ヒアリングの実施
  - ・飯田町燈籠山祭り写真コンテスト開催（7/23～8/31）
  - ・奥能登B級グルメフェスタの開催（9/7）：
 

地域の伝統文化を保存している「燈籠山祭り保存会」と、地域のまちづくり団体である「飯田わくわく広場」と、地域住民の「飯田町町内会連合会」が協力し、実施の企画運営等についてはワークショップでの提案を取り入れつつ、中心市街地活性化の実証実験として当該を行った。
  - ・アンケート・ヒアリング調査（8/15～9/9）：
 

広場周辺商店主や中心市街地商店街・イベント実施スタッフに対し「中心市街地活性化のための企画実施についての意識調査」等のアンケート・ヒアリング調査を実施した
- ②中心市街地のまち歩き促進事業・連携したWebでの情報発信
  - ・Webとの連携による街歩き促進とSNS（facebook）を活用した情報発信を実施し、上記企画と連携したgoogleMAPの作成と活用による魅力創出を実施した
- ③中心市街地活性化を地域住民で作る企画実施のためのワークショップ（全5回）
  - ・個々の団体の企画として開催しているイベントが多いことから、これら団体にて意見交換会を行い、これからの地域のあり方や次年度以降の事業の進め方（イベントの同一開催や相互参画など）の話し合いを行った

→ イベント開催前の協議の様子



→ 奥能登B級グルメフェスタの様子



**実施成果:**

- ・アンケート・ヒアリングの結果、実施したイベントや企画が必ずしも消費につながっていない事実が明確化した
- ・関係者間で実施したワークショップを通じ、今後は消費につながるような新しい取組の実現に向けて、問題意識の共有化、進むべき方向の統一といった観点で、まちづくり団体と商店街との「つながり」が形成された
- ・結果、次年度はこの「つながり」を活かし、実際に新たな企画（自然体験・伝統芸能体験等のオプションツアーをパッケージングした宿泊プラン、奥能登B級グルメを期間限定で提供される店舗の創出）の取り組みに向けて動き出すこととなった

<b>事業名称</b>	まだら状津波被災地における空き地再編型市民事業
<b>団体名</b>	気仙沼八日町復興まちづくりの会
<b>実施場所</b>	宮城県 気仙沼市

**事業概要:**

当地区は、津波被害で空き地が散在しているが、区画整理区域外であり、復興まちづくりを進める上で行政からの支援が無いため、住民自らが任意事業等の計画を検討することが求められている。そのため、土地の交換分合や共同化等によって空き地を再編し、地権者や住民主体の復興プロジェクトを推進するために、以下の事業を実施した。

**実施報告:**

- ①（八日町地区復興まちづくり）幹事会の開催
  - ・代表、幹事、専門家による会議を開催し、八日町地区の復興まちづくりの進め方、スケジュールや体制の検討を行った
- ②（八日町地区復興まちづくり）勉強会の開催
  - ・平成25年度には計6回の勉強会を開催し、当初は「勉強会の進め方」から空き地再編計画の策定、必要となる事業（共同化事業（買取型災害公営住宅）の案の説明までを行った
- ③グループヒアリング、ゾーン検討会
  - ・特に再建意向をお持ちの地権者を中心に4から5名によるグループヒアリングを行い、作成した模型等を使用しながら、事業化の可能性推進のためのゾーン検討会を開催した
- ④専門家による空き地再編型の事業手法の検討
  - ・空き地の所有者の意向は様々であることから、この意向を踏まえた場合の事業手法の検討（（任意の）土地の交換分合と有料建築物等整備事業の組み合わせ）を、具体的な候補地のケーススタディを行いつつ、検討を深度化した
- ⑤ニュースの発行等による広報活動
  - ・上記勉強会や復興まちづくりの状況を地区住民等に周知するため、2回のチラシ（復興まちづくり勉強会ニュース）を2号発行した

→  
第3回勉強会の様子



→  
ゾーン検討会の様子



**実施成果:**

- ・本事業の数値目標として、勉強会参加人数を昨年度（43名）の3割増とすることし、目標達成にはならなかったが、新たに5名の参加者を募ることができ、且つその者のまちづくりの意向を確認することが出来た
- ・また実際のプロジェクトも2件の具体化を目標としていたが、1件のみ（優良建築物等整備事業を標榜）の具体化しかならず、目標達成にはならなかったが、その事業はH26年度から具体化の事業検討（事業計画作成費が予算化済）に進むこととなった。

<b>事業名称</b>	摂田屋地区歴史的建造物と景観の保存、再生に係る事業
<b>団体名</b>	NPO法人 醸造の町摂田屋町おこしの会
<b>事 施 場 所</b>	新潟県 長岡市

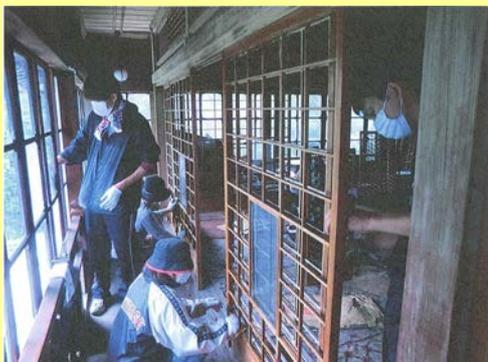
**事業概要:**

江戸時代からの醸造の町である摂田屋地区は戦災を免れ独自の文化・景観を保ったが、その魅力が発信されたのは最近になってからであり、この町に根付く産業・景観・文化についてはその魅力や現状を十分に伝えきれていない。摂田屋の景観や文化を後生に残し伝えるために、特に「機那サフラン酒本舗」施設に関連する以下の事業を実施した。

**実施報告:**

- ① ボランティアによる庭園施設等の清掃活動（4月～10月【計8回】）
- ② 有形登録文化財申請資料作成、当該資料作成のための建造物調査（5/1～/2）
- ③ 庭園施設の修復（大型灯籠4基等の積み直し）（5/2～/3）
- ④ JR長岡駅における既存誘導サインの移設・改修（6/20）
- ⑤ 建造物調査報告会「機那サフラン酒本舗建築調査報告会」の開催（6/23）
- ⑥ 「機那サフラン酒本舗保存を願う市民の会」の立ち上げ（6/23）
- ⑦ 「絵本力士君」出版
- ⑧ イベントに合せた庭園及び離れ屋敷の一般開放（10/5）
- ⑨ 歴史講演会「吉澤仁太郎と摂田屋」の開催（11/3）
- ⑩ PRのためのTシャツ作成

→  
ボランティアのみなさんによる  
離れ屋敷の清掃活動



←  
離れ屋敷の一般公開の様子

**実施成果:**

- ・延べ200名超のボランティアの方々による当該施設の草刈・片付け清掃、地元町内会のみなさんや地元の長岡造形大学の教授・学生さんたちの協力により、長年閉鎖状態であった「機那サフラン酒本舗」の施設のうち、離れ屋敷と庭園を公開することが出来た。
- ・また建造物調査結果の報告会や歴史講演会を実施することにより、これら施設のみならず、本舗の創業者も含め、郷土の魅力や価値を広く発信することができ、結果、当該施設の保存運動の輪が広がった。